

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々と連携を図りながら「その人らしい暮らしをその人が主役で作れるケア」を理念に、職員の業務上の役割を極力決めず、その日その人の動き、要望に合わせた支援を柔軟にできるように取り組んでいます。地域密着サービスということを大切に、地域の方との交流を行っています。コロナ禍で交流が難しくなり、ホーム外での関りが少なくなり、ホーム内での支援が多くなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域住民と交流したり、運営推進会議に地域関係者の参加を得るなど、地域に根差した運営を行っている。災害時においては地域と連携したり、行政委託による介護予防事業など、地域を巻き込んだ取り組みを積極的に行っている。職員の休憩時間の確保、有休の取得、資格取得の補助など、働きやすい環境を整えている。1年半前から外国籍の職員を雇用し、住宅補助や日本語教室を開催し、日本語検定合格を支援している。障がい者手帳を持つ介助員をアルバイトとして受け入れている。職員は利用者が穏やかに過ごせるよう、一人ひとりの思いに寄り添い、支援に取り組んでいる。家族との信頼関係もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた支援ができるように日々の申し送りや職員会議での話し合いを行っている。	理念と基本指針は、職員や来訪者に分かりやすいように玄関に掲示している。内部研修でも理念や働く姿勢について職員間で話し合い、より良いケアにつなげていけるよう意思統一を図り、実践にいかしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の関り方に苦慮している。そのでも地域の方が野菜や切れ布など色々なものを寄付して下さり、声をかけて下さるなど、地域の一員として認められているのではないかと感じる。	高校の実習生受け入れや、散歩時には住民と挨拶を交わすなど、地域とのつながりを大切にしている。コロナ禍前は夏祭りや流しそめんを行ったり、歌声サロンへ出かけていた。現在は自粛しているが、今後、感染状況をみながら地域交流を進めていきたいと考えている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナも第5類に移行し、運営推進会議を再開したが、依然、コロナ・インフルエンザなどが流行しており、出席者が少なく、意見の交流が少なく感じる。	運営推進会議は隣接事業所と合同で隔月に開催している。年に一度、避難訓練を兼ねた会議も開催し、構成員と避難誘導や管理体制など話し合いを行っている。今後は構成員から意見が出やすいように事前に話し合うテーマを決めていくことを検討している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中津川市のグループホーム部会を通じ、市との情報交換を行っている。必要があれば市の担当者を部会に出席してもらう事もある。	運営推進会議には行政の参加を得て、研修会やグループホーム部会の情報交換等を行っている。地域包括支援センター担当者とは介護予防事業や新規申し込み時の相談等を行い、協力関係を築いている。今後、災害時の避難先を再度、検討するとしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会での話し合いを通じて、日頃のケアに関し、その事例が身体拘束に当たるのではないかと確認しあい、身体拘束にならないようなケアに取り組んでいる。	毎月の職員会議で身体拘束適正化委員会を開催している。事例をもとに身体拘束に繋がる可能性はないかを話し合っている。スピーチロックやアンガーマネジメントについても、外部研修を受けた職員が伝達講師となり、職員間で共有しながら意識を高めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に権利擁護推進員の研修を計画的に受けてもらい、どんな言動が高齢者虐待に繋がるかを認識できるよう努めている。	虐待防止の指針を整備している。身体拘束適正化委員会同様、職員会議の中で虐待防止委員会を開催し、ヒヤリハットや事故報告書をもとに、話し合っている。今後、重大事故に繋がりがねない事例についても検討しながら、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会を職員会議の中で行っている為、議事録は一緒になっている。今後は、個別の研修記録や議事録の整備など、委員会での話し合いを、より良い支援に繋げる工夫に期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみではなく、職員一人一人が日常生活自立支援、成年後見制度を学べるよう、今後、研修等を計画している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所前に本人・家族との面談の時間を設け、契約内容等について、詳しく説明し、理解をしていただいた上で契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見等は、日々の関りから聞くように心がけている。ご家族には面会時などに伺うようにしている。	家族の面会は事前連絡を依頼している。面会制限はなく、感染予防対策をした上で多目的で行っている。担当職員が、利用者の発した言葉や写真を載せた個別便りで、家族に日々の暮らしぶりを伝えている。家族の意見や要望は、面会時や電話でも聞き運営に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、職員の意見や提案を聞くようにしている。 また、その都度聞くように心がけている。	管理者も現場に入っており、職員の意見や要望を聞いている。管理者が不在の時は、専用の連絡ノートに記入し気づき等を伝えている。今年度、浴室を改修する際は、浴室の位置や大きさなど、職員の意見を取り入れながら、より安心・安全な浴室を作ることができている。	リスクマネジメントにおいて、事故報告書を記録しているが、記録が抜けている箇所がみられる。報告書の作成と家族へ連絡担当者を決めた上で、記録と報告の徹底に期待したい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の要望を聞き、一人一人が働きやすい職場を目指している。	産休や育休を含めて、希望休及び有給取得について職員の要望を聞きながら、安心して働ける環境を整えている。また、休憩時間や休憩場所の確保、規定を定めた資格取得の補助を行い、やりがいを持って働ける就業環境を整備している。外国籍の職員にも、住宅の補助や資格取得の補助がある。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修等を受ける機会を設け、計画的に実施している。 施設内でのケアについては、ベテラン職員からの教育を主に行っている。	新人職員や外国籍職員にはOJTを実施し、必要な知識やスキルを身に付けられるよう支援している。年間研修計画はあるが、人員が足りない事が多く計画的に研修が受けられていないこともあり、外部研修を受けた職員が、伝達講師として全職員に伝えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域での会議には積極的に参加している。今年度はグループホーム協議会の支部長を引き受け、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の不安へのアプローチを心掛け、安心できるような関係の構築に重きを置いて行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや願いをなるべく叶えられるように支援している。思いを伝えることが困難な方には、本人の以前の意向を参考にしながら、支援するように努めている。	日頃から利用者の思いを聞き、話した内容やつぶやきはケース記録に記載し、職員間で情報を共有している。アセスメントシートの内容や日頃の表情などから、思いや意向の把握に努めている。家族にも利用者の好みを尋ねている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや職員会議などを通じて、ご本人の思いを基に、より良い生活が送れるよう、介護計画に繋げている。	ケアマネジャーは普段から現場に入っている。利用者の状態を把握した上で、本人・家族の思いや担当職員、医師、看護師、薬剤師等、関係者の意見を参考にして介護計画を作成している。毎月の職員会議でもモニタリングを行い、気付いたことを話し合い介護計画作りにつなげている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(個別記録)を作り、個人の状態、思いや気づきなどの情報共有ができるようにしている。	職員会議の中で、担当職員が介護計画の短期目標の中から、一つの支援目標を設定している。朝の申し送り時に読み上げ、意識付けを図り、ケース記録に目標を書いて、いつでも確認できるようにしている。その都度、状態の変化があれば柔軟に見直しを行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思い、その時の状況などに応じ、対応できるような体制作りをしている。	遠方の病院を受診する利用者は介護タクシーを使い、必要に応じて職員の受診付き添いサービスを行っている。二ヶ月に一度、理容師の訪問を受けている。コロナ禍前は、地域の歌声サロン参加や文化祭の作品展に出席を行っていたが、現在は休止中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には努めているが、コロナ禍でどう活用しながら、ご本人のより良い生活に繋げていくのか模索している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能であれば、今までのかかりつけ医に主治医として、関わっていただくようにしています。入所後は書類などを作成し、状況報告などを行うようにしています。	かかりつけ医について、本人・家族に説明している。従前のかかりつけ医や専門医へは家族送迎が基本となっている。車イスの利用者は病院まで職員が同行し、家族と待ち合わせをする場合もある。月1回の協力医による往診や、毎週の訪問看護師の健康指導を受けている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、入院先に提供。退院時にはサマリーや直接状態確認などを行い、スムーズな支援に繋げるようにしている。	入院時は管理者やケアマネジャーが病院関係者と情報交換を行い、家族にも利用者の状態を確認している。退院時は病院から提供されるサマリーを確認し、可能な場合は直接利用者の状態を確認に病院へ出向き、支援につなげている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、重度化した場合、終末期の在り方について、家族との話し合いの場を設け、情報を共有するよう努めている。	契約時、重度化の指針をもとに利用者や家族に説明し、事業所の方針を伝えている。状態に変化があった場合は早めに家族に相談し、その後の支援について話し合っている。職員の配置状況や他利用者の状態により、どこまで支援ができるか説明し話し合っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に対応できるよう、話し合いを行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には、運営推進委員の方にも参加していただき、災害時には迅速に避難できる体制づくりをしている。	隣接の事業所と合同で、夜間や火災を想定した避難訓練を行っている。災害時には、ボタンを押すと青いランプと共にサイレンが鳴る仕組みがあり、近隣住民の協力を得ることが出来るようになっている。備蓄品を整備し、BCPIは検討中である。AEDは隣接の事業所に設置しており、講習も受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として、人生の大先輩として尊重をしながらの支援を心がけている。 支援する側が上の立場に立ってしまわないよう、日々の申し送りや、職員会議で話している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けを心掛けている。入浴支援は同性介助を基本としており、入浴中は札を掛け、分かるようにしている。居室への入室時にはノックをするなど、常に利用者に敬意を払った対応を意識し支援を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から、希望・要望を伺い、出来る限りご自身で決定していただくようにしている。 ご自分で選択できない方には、情報収集した内容から推測しながら行うよう心掛けている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上の役割を極力省き、利用者が中心となるよう、また一人一人のペースに合わせた支援を目指すようにしてしる。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域に根差した行事食(季節食)の提供は、懐かしみを感じながら、また好きな物が食べられるような食事を提供するようにしている。 一緒に行くことも心掛けながら行っている。	隣接の事業所から手作りのおかずが運ばれ、ご飯と汁物は事業所で用意している。利用者は芋煮会で皮むきや五平餅の団子作り、盛り付け等、できることを手伝っている。誕生日会は管理者手作りのケーキでお祝いをしたり、元旦は職員による握り寿司の提供など、楽しみにつなげている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事の提供量。 水分の摂取量も意識しながら、少ない方には飲み物を工夫することも行っています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食行うこと方もいれば、しない方もいます。 こちらでの支援が必要な方には、夕食後に必ず行うようにしています。	洗面台は各居室にあり、利用者は居室で口腔ケアを行っている。職員が居室を回り、口腔ケア後の口の中に食物残渣がないか確認し、義歯は夜間に洗浄液につけている。検診や調整が必要な利用者には、歯科医に連絡し訪問診療につなげている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けています。一人一人の排泄パターンを見ながら、トイレ誘導を行うようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	概ねその日に入る人を決めてはいるが、その日のその人の気分によって時間をずらしたり、後日に変更したりと、楽しみになるよう、個々に応じた支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペース、状態も見ながら休む時間を作っている。 より良い睡眠の為に、日中の運動や体操も行えるようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を理解できるように、処方箋などを見せようとしている。 副作用までは、理解できていないが、それぞれの用法・用量を守るようにしている。	月に一度、薬剤師が訪問して薬をセットし確認をしている。薬の変更があった場合は、薬専用の申し送りノートに記入し、全職員に周知している。服薬支援は、常にダブルチェックを行い誤薬を防いでいる。薬変更によって利用者の状態変化があった場合は、すぐに薬剤師に伝え、対応について相談している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割などが出来る方には、一緒に行っていただくようにしている。 嗜好品などは、希望される方のみとなっている。	洗濯物量み、お膳拭き、フロアや居室の掃除を職員と一緒にしている。鶴を折ることを趣味としている利用者もある。プランターに植えた花や野菜があり、苗植えや水やりなども楽しみながら行なっている。希望があれば、化粧品やお菓子など好きな物を買に行き同行支援を行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等は出来る限り行っている。 以前は喫茶・外食も行っていたが、コロナ禍の為、外出のみとなっている。	天気の良い日は散歩に出かけて気分転換を図ったり、庭のベンチで過ごすこともある。初詣や南木曾・馬籠までドライブに行ったが、感染予防のため、車から降りず車窓から景色を眺めるに留めている。今後は感染対策を行いながら、出来る限り外出支援を増やしていきたいと考えている。	

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいるが、持っていることを忘れる方が増えており、個人で使うことはない。 こちらでの立替が多くなっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも出来るようにはしている。 年賀状は全員が送れるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できる場、暮らしやすい環境になるようにしている。 季節を感じられるような展示等も出来るようにしている。	天井が高く、南側からの日差しが入る明るい居間である。天窓から入る日差し対策としては、大きな布地で遮光するなど、工夫が施されている。ソファでテレビを見たり、テーブル席で新聞を読むなど、好きな場所で自由に過ごす事ができ、居心地の良い空間となっている。定期的に窓を開けるなど、感染予防対策を継続している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の居たい場所に居られるようにしている。 共有の空間では一人になることは難しいが、お部屋に行ったり等、思い思いに過ごせるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった使い慣れた物、思い出のある物を持ってきていただき、ご本人の居心地の良い空間になるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り自分で出来るよう、分かりやすい環境になるように努めている。		